

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473300190
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会
事業所名	高齢者グループホーム あすの里
訪問調査日	平成20年11月17日
評価確定日	平成20年12月20日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1473300190		
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会		
事業所名	高齢者グループホーム あすの里		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市緑区台村町401-2 (電話) 045-929-0336		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(20年10月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 18 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 2人 非常勤 11 人 常勤換算 7.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 1階建ての 1階 部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(119,000円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1		1 名	要介護2		1 名	
要介護3		3 名	要介護4		2 名	
要介護5		2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	86.2 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 一成会、たちばな台病院、地挽歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このホームはJR中山駅から徒歩10分の、バス道路から少し入った、隣には畑もある閑静な住宅地に立地している。建物の内装には木材をふんだんに使用している。リビングの天井は吹き抜けになっており、天窓、高窓から太陽光が差し込み、明るく快適な住環境である。</p> <p>医療連携体制加算の指定を受けており、医師、看護師が24時間対応可能である。内科の往診が2週間に1回あり、健康管理が行われている。ターミナルケアの体制も整えている。</p> <p>2ヶ月に1回の運営推進会議が定着してきており、近隣の理解も進み地域との交流、連携が軌道に乗りつつある。</p> <p>「利用者と共に毎日の生活を楽しむ、不得手なことは無理にさせず、得意なことの質を高めれば、全体のサービスの質が高まる」ことを重点目標としている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価であげられた課題については、会議で管理者から職員に説明し、話し合いをして、市との連携を深めるなどの改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議で管理者から職員に、評価の意義やねらいについて説明して話し合いをした。自己評価は用紙を全員に配布して、取り組み状況を記入してもらい、管理者がまとめて完成させた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。参加メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族、管理者、職員である。</p> <p>議題は、ホームの活動状況報告、地域の行事予定、職員の異動、事故報告、外部評価報告、要望、助言、意見交換などである。</p> <p>地域の一員として地元認知されることが以前からの課題であったが、運営推進会議を通じた自治会長の積極的な協力により、地域との交流が進み連携が取れてきた。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に意見箱を設置して、家族等が意見を出しやすい仕組みとしている。</p> <p>家族の来訪時や家族会で積極的に意見や要望を聞いている。家族会では時間をかけて話し合い、意見を掘りおこすようにしている。自発的に意見が出ない場合でも、ホームから問題を提起することで、避難訓練で使用する防災頭巾の選定がスムーズに行われた事例もある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭り、秋祭り、どんど焼き、防災訓練などの地域の行事に利用者が参加し、また、地域の人々がホームの納涼祭に来てくれるなど地域と交流をしている。「一人暮らしの人の食事会」にも呼んでもらっている。道路清掃などの地域活動にも職員と一緒に参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者が有する能力に応じて、尊厳と安心のある生活を、可能な限り自立して営むことが出来るよう支援することを目的とする。利用者一人ひとりの生活作りを基本として、入居者と共に毎日の生活を楽しむことを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲出し周知されている。日頃のカンファレンスやミーティングでも具体的に話し合い、確認している。相互研修等の研修生にも理念の話をし、再認識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、秋祭り、どんど焼き、防災訓練などの町内会の行事に利用者が参加し、地域の人がホームの納涼祭に来てくれるなど、地元の人と交流をしている。「一人暮らしの人の食事会」にも呼んでもらっている。道路清掃などの地域活動にも職員と一緒に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施するにあたり管理者は、評価の意義やねらいを職員に説明し、全員に自己評価票を配布して記入してもらい、管理者がまとめて完成させた。前回の評価であげられた課題については、市との連携を深めるなどして改善した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月の第4土曜日に定期的開催している。参加メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族、管理者、職員である。議題はホームの活動状況報告、地域の行事予定、職員の異動、事故報告、外部評価報告、防災訓練、要望、助言などである。自治会長の口添えで地域と交流が進んだ事例もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者には運営推進会議の報告をその都度している。区の主催する街角ケア事業に参加し、認知症の相談などを受けている。管理者がセンター方式推進委員として、市や近隣区のシンポジウムの講師として招かれ、認知症の講演をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況やケアプランの説明をしている。家族会を2ヶ月に1回開催し、暮らしぶりや健康状態などの報告をしている。心身の急変時には電話やメールでも連絡している。金銭については、出納帳に記入し、家族の来訪時にコピーとレシートを渡し確認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して家族等の意見が出やすいようにしている。家族会などで時間をかけて話し合い、意見を掘りおこすようにしている。自発的に意見が出なくても、ホームから問題を提起することで意見を出してもらい、避難訓練で使用する防災頭巾の選定がスムーズに行われた事例もある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わることによる利用者のダメージを防ぐためにも、なるべく離職者が少なくなるように、管理者は職員との会話を大事にしている。職員の引継ぎ期間は、通常1ヶ月間以上、新旧の人が一緒に付き添って仕事をすることで早く慣れてもらい、利用者にはダメージがないように配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職員研修予定表を作成している。法人内の研修は職員が交代で参加している。内容は認知症の基礎、救急法などである。外部研修は研修内容に応じ、職員の経験や力量を見て、指名して参加してもらっている。受講後は報告書を作成し、カンファレンスで報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡会、県グループホーム連絡会、緑区・青葉区ブロック会に参加し、情報交換、研修、相互訪問などで交流している。法人内の4グループホームで相互研修を行っているほか、ケアプラン勉強会を毎月開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望する場合には出来る限り本人に見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらおうようにしている。待機者にもホームの行事に声をかけ、早くから親しめるようにしている。本人と他の利用者との折り合いや、ホームの雰囲気に合わせられるかなどを考えて、最初はなるべく声をかけてコミュニケーションをとり、早く馴染めるように工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は全員が女性で、家事は皆それぞれに出来ることがあり、料理の味付け、掃除機かけ、配膳、お皿拭き、洗濯物たたみ、縫い物などを職員と一緒に、教え合いながらやっている。職員の味付けがうまくいかない、利用者から「最初から上手にはできないよ」と慰めてもらったこともある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を使って、できるだけ本人の気持ちを聞き出し、それに沿えるように対応している。これまでの暮らしぶりを会話の中から拾い集め、利用者を深く理解するように努めている。また、本人が言葉にできないことを探っていくと職員間で話し合っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当者がアセスメントシートを記入し、介護計画案を作って計画作成担当者と相談する。項目を3つに絞り管理者を入れて、案を決める。本人、家族に説明し、意見、要望を反映させ、医師等の意見も参考にして、カンファレンスにおいて職員間で話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は毎月のカンファレンスで個別に評価し、3ヶ月毎に見直している。心身の状況の変化など見直しが必要な場合は、必要な関係者と話し合い、早めに変更している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受け、医師、看護師と24時間、365日連絡が取れ、医療支援が受けられる。また医療機関とは、ターミナルケアを支援してもらえ契約となっている。内科の往診が2週間に1度あり、精神科も診てもらえる。家族の状況に合わせ、通院介助や外出支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医の、皮膚科を受診している利用者が1名いる。通院は職員が介助している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は入居時に本人と家族に「最期は病院にするか、あるいはホームで看取るかを考えておいてほしい」と伝えている。同意があれば医師と相談し、カンファレンスを開いて方針を共有している。看取りは2例の実績がある。家族会を午前中に開催し、午後を往診として、医師と家族が話しやすい環境を設定している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声かけは他の利用者にわからないように、離れた場所でするようにしている。個人情報の含まれる記録類は事務室の鍵のかかるキャビネットに収納して管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は食事や掃除以外は自由に、自分の好きなように生活している。タバコを吸う人はいないが、お酒は行事の時には飲めるようにしている。今日を「どう過ごすか？ どうしたいか？」を問いかけ、その人らしさを考え支援している。少し動いた方が良い人には、「花に水をやりましょう」と言って庭に連れ出すこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と一緒に作り、食事の準備や盛り付けも、それぞれ得意な人が手伝ってくれる。職員も利用者と一緒に同じ食事を食べている。食べた後は利用者がそれぞれ片付けている。台所の流し台が2ヶ所あり、皆で食器洗いができるように工夫されている。月に1度の昼食は出前にして、それぞれ好きなものを注文している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かして、利用者は半数ずつ1日置きに入るようにしている。時間の長さや湯温度はそれぞれの希望に合わせている。入浴剤を4種類用意し、毎日変えて楽しんでいる。夜間入浴を希望する人の介助は、管理者が計画作成担当者がローテーションを工夫して対応している。現在は入浴したくない人はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなこと、やりたいことを介護計画に入れて、支援しやすくしている。庭の菜園で野菜を育て、収穫する人、花に水をやる人もいれば、居室でじっくり音楽を聞く人、家事が好きな人などがおり、それぞれの楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所に散歩に出たり、建物外周のウッドデッキで日光浴をしたりする。歩行困難な方は車椅子で出かける。散歩は安全のため1対1で出るようにしている。買い物は1日に1人ずつ行き、その際は職員がマンツーマンで同行する。季節により、家族や地域の方と一緒に、花見、鎌倉、ズーラシア、ディズニーシーなどにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠していない。外部からの侵入者に備え、防犯のためドアに鈴をつけ出入りを注意している。職員は利用者一人ひとりの外出の気配などを把握し、所在を確認して見守りの連携を取っている。隣接の消防隊の方から理解を得ており、門扉の鍵を預けたり、連絡してもらうなどの協力を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域では毎年1回、消防署の指導により近くの小学校で防災訓練を行っており、ホームも全員で参加している。消防署に直接つながる自動火災通報機が8月に稼動したので、近々新しく用意した防災頭巾を使用して、防災避難訓練を行う予定である。非常用食料、備品は近くの系列ホームに合同備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の専門的なチェックは、月に1回法人の栄養士にお願いしている。食事、水分摂取量は入居後1ヶ月間は毎回記録し、多かったり少ない場合は日誌に書き職員間で情報を共有している。食べる量にムラのある人は日誌に記録しチェックしている。全量摂取される人については特に記録していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外装はコンクリート打ち放しであるが、内装は木材をふんだんに使用して温かみがある。リビングの天井は吹き抜けで、天窓や高窓から太陽光が差し込み、明るく快適である。全体にゆったりした配置で、広いトイレが3ヶ所あり、浴室、洗面所も近くにあり使いやすい。浴室と脱衣場は床暖房で冬場も暖かく安心である。草花をあちこちに飾り季節が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は居室にベッド、タンス、化粧台、仏壇など使い慣れた馴染みのものを持ち込んでそばに置き、家族の写真やぬり絵、はり絵などの作品を飾っており、安心して過ごせる場所となっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	あすの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市
記入者名 (管理者)	和田 薫
記入日	平成 20年 10月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自の理念の中には「地域」の項目はない。法人GH合同で作った理念はあるが、職員全員には文章としては浸透していない。日々の活動は地域に根ざしたものになっている。</p>	<p>独自のものを新たに作ろうか、職員間で話し合っていきたい。独自の理念と合同の理念、両方は多すぎるので。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関に掲げてあり、目にしやすい。また、実習生へのオリエンテーションでも話しているため、再認識する機会は多い。カンファやミーティングなどで具体的な実践について話し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関に掲げてあるので、目にはついていると思う。家族会や運営推進会議で理念に基づいた話しはしている。</p>	<p>家族会、運営推進会議で理解を深める話しをしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>以前はこちらから声をかけていたが、最近はこちらから声をかけてもらえるようになった。行事に誘ったりしている。先日は七五三の晴れ着を着た近所の子が、着物を見せに来てくれた。</p>	<p>今後も行事に誘い、来やすい雰囲気、顔見知りになる。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内の行事に参加したり、ホームの行事に参加してもらったりして交流を図っている。地域の清掃に活動にも参加できた。運営推進会議で自治会長さんから行事の連絡があるので、参加しやすくなった。</p>	<p>今後も運営推進会議の場を活用していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアに来ていただいたり、一緒に外出行事を行った。ホーム長から「高齢者の暮らしに役に立ていけるようになりたい」と聞いてから、道で会うお年寄りに積極的に挨拶できるようになってきました。地域の一人暮らし高齢者の昼食会に参加させていただきました。		ホームで交流会をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に目を通して、気をつけるようにしている。以前改善を求められた献立表の栄養士のチェックは、1ヶ月に1回法人の栄養士にチェックしてもらっている。		今後も具体的に改善していけるよう努力していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(偶数月の第4土曜日)に行い、地域行事への参加、地域の人たちとの交流が盛んになってきた。		運営推進会議で、どんなことが話し合われているのかわからないという職員からの声があったので、運営推進会議の報告書を全職員に見てもらおう。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区や市の事業に求められれば参加し、現状や意見を伝えている。		地域の福祉の向上が、サービスの質の向上につながると思う。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に研修の機会はこの1年の間では行っていない。管理者は個々の入居者の状況に応じて、ご家族の相談に応じたり、関係機関につないだりしている。		日々制度は変わっていくので遅れないように情報収集していきたい。職員への研修の機会を設けたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉や態度にも気をつけ、職員間で注意を払っている。管理者は日々の業務の中で、言葉使いなど気になるときはその都度話をしている。		勉強会を実施したい。なんでも言い合える職場作りをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が十分な説明を行い理解、納得を図っていると思う。職員へ質問があった時は管理者へ伝わる連携がとれている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者さんの声や様子は、常に職員間で情報交換して対応するようにしている。言い出せない人もいると思うので、家族にどんなことでも教えて欲しいと話している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回家族会を開き報告している。緊急を要する時には電話で連絡している。4ホーム合同の里たよりも発行している。</p>	<p>利用者個人個人の新聞もできたらいいと思う。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から聞いたことは管理者に報告している。家族会やケアプランの説明時に、ゆっくり時間をかけ話し合うことで意見を掘り出している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>その都度話しを聞いてもらったり、1ヶ月に1回のカンファレンス時に話している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事の時は多目の人数になっている。8時半出勤の早番を作った。状況に合わせて管理者と話し合いが出来ている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者が少なくなるよう管理者は職員との会話を大事にしている。退職理由は各職員がバラバラな事を言って利用者さんが混乱しないように、利用者さんがダメージの少ない言い方を考え統一している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や色々な研修に参加する機会がある。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事に参加したり、参加してもらったりして交流が出来る面もある。相互研修や勉強会でも他のホームの活動を知ることが出来る。		もっと交流がはかれるよう、勉強会など計画して行きたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	話は聞いてくれる。		もっと話を聞く機会を作って欲しいと言う意見もあるので、聞いていきたい。聞く機会の場作りも考えていきたい。その声を運営者につなげていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	パート職員は昇給制になった。有給を取りやすい。		以前行っていた『一年の目標』を復活させたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面接では本人と1対1で話す機会を作り、他職員にも伝えている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とも本人のいない所で、話を聞く機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「本当にグループホームでいいのか」も含め、管理者の持っている情報を出来る限り提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り、本人にも見学に来て頂いている。待機者にはホームの行事に声をかけ、陶芸教室に参加している方もいる。		待機者には今後もいろいろな行事に声をかけ、ホームに雰囲気を感じてもらえるようにしよう。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に色々な事をやりながら、教えてもらったり、励ましてもらったりしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築けている家族もあり、そんな家族にはやはり色々な事を教えてもらっている。が、本人達の今までの関係性もあり、職員が手を出しすぎている場合もあるように思う。		負担にならない程度にもう少し関わりをもってもらい呼びかけをしていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームの行事にお誘いしたりし、コミュニケーションをはかっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の希望が無い限り、面会はどなたでも自由にしてもらっている。お姉さんのお墓参りに行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	髪をとかしてもらい、あげる、など、小さな事の積み重ねをしている。		関係性の悪い入居者さん同士も、これ以上悪く思わないように、入居者さん同士の距離を大事にしていながら、よい関係を築けるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	別のところに移られた方には管理者が時々面会に行っている。ボランティアに来てくれている家族がいる。		お手紙を出すのもいいかもしれない。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使いながら、できるだけ本人の気持ちを聞きだし、それに添えるようにしている。		本人本位の検討が、本当に本人本位なのか職員全員で十分に検討していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接はできるかぎり自宅で行い、本人の生活の様子を肌で感じるようにしている。最初から全てわかる人はいないので、日々の会話の中から拾い集めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のミーティングで思う事、感じた事を話している。センター方式のアセスメントで、コップの変更に気付けた事があった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月に1回のカンファレンスや、担当職員と計画作成担当の話し合いなど、意見を出し合っている。また、ご家族にも意見を入れてもらっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回のカンファレンスで意見を出し合い、見直しを行っている。		極力そうしているがもっとできそう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の欄は小さいので、必要な時には、特記用紙を使用している。小さな気づきやアイディアは入居者ノートを活用している。		全員で書いていけるようなものを考えたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の状況や本人の状態に合わせ、受診の付き添いや外出支援をしている。また、地域の人にも納涼祭に来ていただき、入居者さんと子供たちの交流、お母さんと先輩お母さん(職員)の交流、息抜きができたように思う。隣の子供が七五三の晴れ着を見せにきてくれ、みんなで「おめでとう」とお祝いが言えた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の防災訓練に参加している。ボランティアさんも9組に増えた。		今後も多くの方とかわりながら、支援していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容サービスについて教えてもらった。医師の勧めで訪問マッサージが2組入っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっていることで、地域の防災訓練と一緒に参加することができた。		今後は一人ひとりの入居者さんにかかわってってもらいたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診医の診察があり、必要があれば病院への受診をすすめられている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医である往診医で、今の入居者さんの症状には充分対応できている。入居前から専門医にかかっている人がいる。3ヶ月に1回受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居さんのことについては、看護師に電話で相談が出来る体制がとれている。また、ホームのアドバイザーが看護師である。法人内看護師には一般的なことについて相談ののってもらえる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には詳しく今の状況を書いている。また、入院中は1週間に1回以上面会に行き、本人の様子を聞いたり、話したりしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者が、まず入居時に話をし、必要に応じて機会を作り話し合いの場を設けています。その後管理者から話しがあり、全員で方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の病気や収入に応じて、今後の想定を立てている。必要により、特養に申し込みをしてもらっている。重度化や終末期に向けて、職員全員に話しがある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	管理者が十分に連絡を取り合おうと努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録にはイニシャルを用いている。排泄の声かけは他の利用者にわからないように誘導したり、耳の遠い人には大きな声で聞くこともあるが、皆の前で聞かれていると言う思いを抱かせないように、離れた場所で聞いている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>介護計画にも取り入れている。色々な場面で「選ぶ」という事をしてもらっている。例えば、ゼリーを選んでもらう時も、たくさんの中から選べる人、色で選ぶ人、2個の中からなら選べる人、と状態に合わせて支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>まずは「どうする?」「どうしたい?」と問うようにしている。その人らしさを考え支援している。</p>	<p>職員のペースになってしまう事もままあるので、皆で考えていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の望む店にも行って見たが、本人の意向を一番わかってくれた訪問美容サービスが定着した。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立を一緒に作ったり、食事の準備も一緒に行っている。盛り付けが出来ない人も、目の前で盛り付けをし、楽しみに思ってもらえるようにしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒は日常的に飲みたいと言う人がいないが、行事の時には出し、楽しんでもらっている。健康面を考えながら、ラカントを使う人がいたり、好きなだけデンプをにかけている人もいる。デンプは自分で買いに行ってもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用している。声かけや誘導をこまめに行っている。日中は出来る限り、布パンツ+パットにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かし、入居者さんは1日おきのペースで半数ずつ入浴している。入浴時間の長短や、湯温度の希望は極力聞いている。バスクリンが好きな人には、2種類用意しておき、選んでもらっている。毎回ではないが、夜入浴している入居者さんもいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日お昼寝する人もいるが、日々の状況に合わせて行っている。疲れすぎないようにこまめに休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好きな事、やりたい事を介護計画に入れ、支援しやすいようにしている。庭に農園を持ってもらっている人、音楽をじっくり聞く時間を持ってもらっている人、季節ごとに洋服を買いにいける人、それぞれに合わせた支援をしている。		入所時に生活歴などの情報が少ない方がいるので、入所後にも情報収集に努める。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはそれぞれおこづかいを持ってもらい、自分で払える人には払ってもらっている。自己管理で数千円持っている人もいる。自分の物を買うときには、自分の手からお金を払ってもらうようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に行ったり、ウッドデッキでひなたぼっこをしたり、本人の希望、能力にあわせ支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別外出や行事で出かけている。今年度は、お花見(桜、チューリップ、あじさい)ディズニーシー、鎌倉、ズーラシア、地域のお祭り、高島屋、外食、お茶、公園、ららぽーとなどに		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には電話をかけられるようにしている。手紙をかけるようレターセットは用意している。電話を受ける経験をしてもらおうと、かかってきた電話の人(法人事務員)に入居者さんと話してもらったこともある。		手紙を書いてみないか聞いてみよう。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室、フロア、過ごしたいところで、過ごしてもらっている。日中は玄関は施錠していないし、面会時間の制限は設けていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしています。声かけの仕方にも注意しています。		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を全職員に配り、もう一度勉強会を開きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。居室に関しては、職員が鍵をかけることはないが、入居者さん本人がかけていることはある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に長くいる方は時々そっと様子を見に行っている。職員同士声を掛け合いながらしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	所在の確認を常に心がけ、置きっぱなし、出しっぱなし、にしないよう注意している。決められた場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた場合には、状況報告書に今後の防止策も記録し、全員で把握している。管理者が気になることは、その都度話をし、職員の意識にあがるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応のマニュアルは職員ロッカールームに貼ってあり、いつでも目に付くようになっている。何かあればすぐ管理者へ連絡をとることとなっている。		救急法の研修を、11月と2月に開催予定。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の訓練に参加したり、カンファレンス時には再確認の話を管理者からしたりしています。お隣の家の方に門扉の鍵を持ってもらっています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	管理者からだけでなく、アドバイザーの方からも話してもらっていることもある。脳動脈瘤のある方も、ご家族とお話しし、暑い夏も今までどおり、職員と買い物へ出かけられた。職員も家族の思いを知れるいい機会となった。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回バイタルチェックをおこなっている。いつもと違うと感じたら、バイタルチェックを行い、他出勤者へも伝え皆で様子観察している。状況によっては管理者へ連絡している。尿や便の色や形状、臭いなどもチェックしています		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書は日誌にファイルしてあり、いつでも見れるようになっている。服薬が変わるときは、症状の変化に注意してもらえるよう、連絡ノートに書いたり、口頭で申し送っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分は多めに摂ってもらっている。入居者さんによって、お手伝いを頼んだり、散歩に行ったり、「でるでる茶」を飲んだりしてもらっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	それぞれの入居者さんに合わせ、声かけや介助を行っているが、できなくなっていく事を頭に、自立の人も、できているかさりげなく見守っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のトータルで を大切に、その時飲みたい・食べたい気持ちにならなければ、少し時間を置いて、物をかえて行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロやインフルエンザは、流行期前にチラシを配ったりしている。新聞などの情報も皆で見て共有できるようにしている。出勤時、外出後、手洗いうがいをしている。研修にも積極的に参加している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行っている。今夏から保冷バッグを取り入れた。貝類は 危ない時期 はメニューに入れていない。包丁まな板は熱湯消毒し、冷蔵庫の温度チェックや布巾は1食ごと交換したり、など気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは季節ごと花を植え替えたり、行事の看板を飾ったりしている。中庭は入居者さんと草取りをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木を沢山つかっている。入居者さんの写真や季節の花、小物を飾ったりしている。トイレが夏場異様に暑くなってしまう。臭いはこもらないように換気をしたり、消臭剤を活用しています		トイレの窓の外に日よけをつけるか、内側にロールスクリーンをつけるか次の夏までに考え中です。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが過ごしたい場所で過ごせる様、イスの配置を換えている。ウッドデッキに日よけの parasol がある。		今後畳みの部屋にゆっくり座れるソファなど設置し入居者さんたちの行動範囲を広げてあげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持ってきてもらっている。新たに買うときは本人に選んでもらったりしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアには温湿度計があるので、それを見ながら室温管理をおこなっている。掃除の時など、1日1回は換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は手すりがある。居室内に手すりを付けたほうが良いと思われた入居者さんの居室には、手すりをつけた。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室やトイレには名前等を書いた札をかけてある。それでも不十分な人には本人の分かりやすいように書き換えた。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には季節ごと野菜やお花を育てている。玄関にもお花を植え、皆で世話をしている。ウッドデッキがあり、日光浴したり、中庭の鑑賞をしながら、談笑したりしている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・入居者さん共に毎日の「生活」を楽しもうとする姿勢が職員にはある。地域の方との交流が頻繁にある。